

## 1973年 夏休み北海道旅行②～道東の旅

1973年7月16日(月)～20日(金)

### 【1973年7月16日(月)】

#### (1) 根室本線(帶広～釧路)、標津線

帶広では特に観光地に行くこともなく、8時35分発の根室本線の急行「ぬさまい」に乗り釧路に向かいました。今日の目的地は、海水で枯れたトド松が地面に倒れた風景で有名な野付半島の「トドワラ」を見に行くことです。釧路には11時06分に到着しましたが、釧路で昼食を済ませると12時30分の釧網本線の急行「しれとこ」で標茶線の分岐駅である標茶を目指しました。釧網本線には明日も乗車するので、明日の乗車を釧網本線の乗車記録に整理します。

<1973年7月16日>

○帶広	8:35 発
	根室本線
	(急行)ぬさまい[釧路行] 2時間31分
	11:06 着
○釧路	12:30 発
	釧網本線
	(急行)しれとこ 2号[網走行] 49分
	13:19 着
○標茶	13:35 発
	標津線(普通)[根室標津行] 1時間42分
	14:29 着
○根室標津	

標茶には13時19分に到着し、13時35分発の標津線の根室標津行きに乗車しました。この標津線も1989年に廃止されてしまいました。標茶を出て根室標津へ

#### 根室本線のダイヤ

(急行)ぬさまい

帶 広	8:35
札 内	↓
幕 別	8:50
利 別	↓
池 田	9:05
十 弗	↓
豊 頃	↓
新 吉 野	9:20
浦 幌	↓
上 厚 内	↓
厚 内	↓
直 別	↓
尺 別	↓
音 別	↓
白 糠	10:38
西 庶 路	↓
庶 路	↓
大 樂 毛	↓
新 富 士	↓
釧 路	11:06

向かう線路は69.4kmあり、標津線には中標津から厚床までの支線もありましたが、支線も本線と同時に廃止されました。標津線の沿線には広大な畑が広がっていましたが、写真も残っておらず、当時の車窓風景も全く思い出せません。

標茶から野付半島の先にあるトドワラまで歩くには遠く、公共交通機関があったのかどうかもわかりません。そのため、駅の近くでヒッチハイクを敢行し、幸いにも同じ方面に行く若い男性2人に乗せてもらいました。その2人と一緒に男4人で夕方の野付半島に車で入り、トドワラのすぐ近くまで行き、枯れて倒れたトド松の荒涼とした風景を見ることができました。その当時でも、観光パンフレ



#### 標津線のダイヤ

	325D
標 茶	13:35
泉 川	13:59
光 進	14:05
西 春 別	14:14
上 春 別	14:21
計 根 別	14:27
当 幌	14:39
中 標 津	14:48
上 武 佐	15:00
川 北	15:06
根 室 標 津	15:17

ットで見た写真より実際の倒木の数が少なかつたように感じたのですが、今ではトド松の倒木がほとんど無くなってしまっているのかもしれません。

道東の夕暮れは早く、トドワラを出る頃には既に薄暗くなっていたように思います。車に乗せてくれた2人と一緒のユースホステルに泊まったのか、どこかで別れたのかの記憶もありませんが、私達2人は標準ユースホステルに泊まりました。しかし、それが標準町のどの辺りにあったのかは全く覚えていません。



1973年当時のトドワラ



【1973年7月17日(火)】

## (2) 根室本線(厚岸～釧路)

この日は釧路に戻る計画で、根室標準から標準線の本線を中標準まで戻り、中標準から標準線の支線を厚床まで乗車する予定でした。そして、厚床からは根室本線で霧多布近くの浜中あたりまで行き、霧多布岬を観光する予定でした。

しかし、この頃になるとヒッチハイクで車に乗せてもらう方が便利で楽なことを感じており、この日も予定を変更してヒッチハイクで厚床方面に向かうことにしました。道路脇で手を上げ、通りがかりのダンプカーや乗用車に何台か乗せてもらい、根室標準の近くから目的地の霧多布岬までヒッチハイクで行くことができました。その詳細は記録には残っていませんが、親切なドライバーに恵まれ、運よく目的地の霧多布岬まで行くことができました。当時の時刻表を見てみると、霧多布から厚岸の間にはバス路線もあったようですが、それを利用したようなメモは残っていませんでした。

写真に残っていたのは、厚岸から釧路に向かう列車の中でカニを食べたことでした。このカニは厚岸駅前の店で売っていた花咲ガニで、結構大きなカニでしたが学生が購入できる値段だったのだと思います。その頃は今と違い、花咲ガニは比較的安く売っており、列車の中で新聞紙を広げて花咲ガニを2人で半分ずつ食べました。

その花咲ガニは非常に美味しく、満足する量があったことを覚えています。カニを食べた列車は、厚岸を 13 時 50 分に出発した SL が牽引する列車で、釧路まで 1 時間以上かかっているのでカニを食べるには十分な時間がありました。

第 2 部で書いたとおり、厚岸を 2019 年 11 月 3 日に再び訪れましたが、今は駅前にカニを売っている店はありませんでした。

車内でカニを食べて釧路に 14 時 58 分に到着し、この日は釧路ユースホステルに宿泊しました。ユースホステルへは釧路からバスに乗った記憶があるので、インターネットで調べてみたところ、春採湖の近くにあったことがわかりました。

根室本線のダイヤ

	444
厚 岸	13:50
門 静	13:58
尾 幌	14:11
上 尾幌	14:24
別 保	14:44
東 釧 路	14:53
釧 路	14:58



### 【1973 年 7 月 18 日(水)】

#### (3) 釧網本線(東釧路～弟子屈)

釧網本線は、網走市の網走と釧路市の東釧路を結ぶ延長 166.2 km の路線です。釧網本線の列車は、東釧路の西隣の根室本線の釧路発着となっています。一昨日も釧路から標茶まで乗車しましたが、今日も同じ線路を乗車して標茶の 2 駅先の弟子屈まで乗車しました。

弟子屈は難読駅名の 1 つですが、阿寒湖、摩周湖、屈斜路湖などの観光地の最寄駅として有名なため知っている人も多かったと思います。しかし、JR 北海道は 1990 年に「弟子屈」の名称を「摩周」に変更しました。

<1973 年 7 月 18 日>

○釧路
9:05 発
釧網本線
(急行)大雪 4 号[札幌行] 1 時間 15 分
10:20 着
○弟子屈

この日は釧路を 9 時 05 分に出発する急行「大雪 4 号」に乗車し、弟子屈には 10 時 20 分に到着しました。その後は、弟子屈から摩周湖、硫黄山、川湯、美幌峠などの観光地をまわりましたが、そこへの移動は全てヒッチハイクでした。この日の摩周湖は霧の摩周湖で、

ほぼ全面が霧に覆われていました。

この日の宿は地元の観光案内所で紹介してもらった弟子屈町内の民宿でした。インターネットで検索すると、同じ名前のビジネスホテルが弟子屈町にあったので、そこが当時泊まった民宿だったのかもしれません。



釧網本線のダイヤ

(急行)大雪4号

釧 路	9:05
東 釧 路	↓
遠 矢	↓
細 岡	↓
塘 路	9:34
茅 沼	↓
五 十 石	↓
標 茶	9:57
磯 分 内	↓
南 弟 子 屈	↓
弟 子 屈	10:20

### 【1973年7月19日(木)】

この日は弟子屈町の民宿を出発し、近くの阿寒湖、オンネトーへ行きました。阿寒湖は有名な観光地ですが、オンネトーは知る人ぞ知る旅行マニアの観光地として口コミで広がり始めた湖で、観光ガイドにもあまり詳しく出ていなかったと思います。当時のユースホステルで知り合った人たちからオンネトーが良いという話を色々なところで聞き、その話に乗って私たちも行ってみることにしました。近くまで車に乗せてもらい、オンネトーへの道を20~30分歩いて小さな湖に着きました。途中の道に熊注意の看板を見かけ、持っていたラジオのボリュームを上げて、大きな音を流しながら歩いたことを思い出します。

その後もヒッチハイクでダンプカーに乗せてもらい、美幌峠を越えて網走まで送ってもらいました。そのため、釧網本線は弟子屈(摩周)から斜里の間が未乗車のままとなり、第2部でその区間を乗りに行った時のことを書きました。



【1973年7月20日(金)】

(4) 鉄網本線(網走～斜里)

この日は鉄網本線で網走から斜里まで行き、当時は秘境のイメージがあった知床半島に行きました。

網走を6時40分発のSLが牽引する鉄網本線の列車に乗車しました。途中には「浜小清水」や当時はまだ臨時駅だった「原生花園」などの美しい名前の駅があり、それらの駅を通って斜里には7時45分に到着しました。今日の予定は、ここから知床半島をウトロ港まで行き、観光船で海から知床半島を眺めて網走まで戻ります。この日も斜里を出てしばらく歩いてヒッチハイクをし、ウトロ港まで行くことが出来ました。

ウトロ港からの観光船では、断崖から滝の水が海に落下しているオシンコシンの滝などを見ることができました。その当時は道路の近くで野生の熊の姿は見ませんでした。ウトロ港からの帰りもヒッチハイクをし、結局は列車に乗らないで浜小清水まで戻って来ました

この日の宿は、浜小清水近くの小清水ユースホステルでした。

<1973年7月20日>	
○網走	
6:40 発	
鉄網本線(普通)[釧路行] 1時間05分	
7:45 着	
○斜里	

釧網本線のダイヤ	
	631
網 走	6:40
鱒 浦	6:51
藻 琴	5:57
北 浜	7:03
(臨)原生花園	↓
浜 小 清 水	7:22
止 別	7:31
斜 里	7:45

